

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



目次	
古高取の魅力伝える	2
古高取の広場	3
活動の記録	4
なんでも掲示板	4

『がんばろう日本！』

「古高取・古唐津展」の開催をこの五月五日に無事終了した。

この展示会準備中に、東日本大震災という未曾有の災害が起こった。

被災状況の激しさが増す中で、会員一同被災された方々への深い哀悼の意を示しながらも、展示会の成功に向けて努力してきた。

関係団体との綿密な連携調整、講演依頼、各新聞社への報道依頼、会場設営等。会員においては、監視スタッフの配置についても、皆様の協力により一日八名を確保した。更に、ポスターづくり、市民への啓発のための情報誌の配布を行った。

これらは、会員一人一人が自分の想いを伝えようとする行動の表われであったと思う。

この活動を機に、更に内容の充実、会員確保等に取り組んでいくことが、「がんばろう日本！」への地道な行動ではないかと考える。

能間 瀧次

古高取の魅力伝える

「古高取・古唐津展」を 開催しました

期間…四月二日(土)～
五月五日(木)
会場…直方谷尾美術館



直方谷尾美術館

舟山さんを始め、関係者のご厚意、会員の皆様のご協力に、厚く御礼申し上げます。

来館者、延約二〇〇〇名、直方市内に限らず、遠来の方も多数訪れ熱心に見入っていました。また、何回も来館される方もいて、成功裏に終わることが出来ました。

新聞や、テレビでも取り上げられ、会の存在を、広くアピール出来ました。

今後とも、古高取の魅力を深め、広めていく活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

直方市賑わいまちづくり推進協議会

会長 永富 政英



直方市賑わいまちづくり推進協議会は、平成二十一年六月に認定された「直方市中心市街地活性化基本計画」に則り、中心市街地に賑わいを創出することを目的に集った市民ボランティアによる団体です。

協議会では、「のおがたチュールップフェア」の賑わいを隣接する「直方レトロ」や中心商店街への回遊促進を目的に適宜取り組みを行ってまいりました。しかしながら、こうした回遊は、私どもの思惑通りにいかず、中心市街地へ「より魅力的」で、「より足を運んでいただける」ような、球集客力のあるイベント企画の必要性を痛感しておりました。

そうした折、「のおがたチュールップフェア」と連動した「古高取・古唐津展」が四月二日から五月五日まで開催され、直方の宝である

「高取焼」によって、この回遊に大きく寄与してくれるのではないかとひそかに期待していたところでありました。

高取焼が直方の永満寺宅間に窯を開いて四〇〇有余年。その後、移転したとされる頓野の内ヶ磯窯と併せ、この二つの窯で作られた陶器を「古高取」と呼び茶陶器類は美術品としての評価が非常に高いと言われ、期間中は多くの来場者で賑わい、新たなまちづくりの可能性を見出せたのではないかと心から喜んでおります。

こうした素晴らしい企画の展示・運営はボランティアとして「古高取を伝える会」を中心に行っていたいただき、期間中のご苦勞に心より敬意を表しますとともに深く感謝を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

「古高取・古唐津展」を顧り見て

舟山 美彌雄

故ありて古高取、古唐津窯の展示会に関わる事になり、内ヶ磯窯について調べてみた。

結果、新しく見えた事と疑問に想う等を記して今後の課題の一助になればと想う。



亦、高取の沿革、概要は多く語られているので此の際控えて。

云う迄もなく高取焼は遠州好み七窯の一つとして有名で、中興名物茶入に、松風、腰蓑、秋の夜等、十種に及ぶ名器を輩出した名窯である。

此の名器茶入の糸切は、唐物に倣い左糸切となっている。

故に、内ヶ磯窯には右糸切は無いと云うのが通説だが事実なのだろうかと云うのが疑問の一つ。

何故なら松井文庫の茶入に筑前焼、左近殿より来るとあり底辺は右糸切である、内ヶ磯窯の出土品の中にも幾多の右糸切茶入がある。遠州高取が(白旗山窯)左糸切で、内ヶ磯窯と違ふと云う反論もある

うが其れが亦疑問の一つ。
遠州高取の特徴として釉は白色、

浅碧、青黒が多く、窯変して金色を呈した物ありと云う。

ところが、この条件に類似する陶片が内ヶ磯窯跡から限りなく出土する。

此の度、展示した茶碗、水指等にも、類似した同様の物がある。

この事は何を意味するのか、……疑問の二である。

遠州高取の由来は云う迄もなく現飯塚市に、一六三〇年に窯が築かれた頃、現京都、伏見に八山父子が赴き、小堀遠州より茶器の指導を受けたので遠州好み七窯の名はここに発したとあり。

此れより技術が進歩し中興名物が生れた等もある。果して其うなのか、……。



内ヶ磯窯から出土した数々の茶道具陶片と伝世品を見て、轆轤技術の確かさや、美しい造形、使い勝手の良さ等を総合すれば、茶道の奥を究めた人物の指導がないと作れないのではと想うものが多い。

その人が遠州となれば時代的な溝が出来、説明が出来ない。

小堀遠州の指導はあったのだらうが、内ヶ磯窯時代には、すでに偉大な指導者と腕の立つ陶工が数多く存在していたのではと想う。

勿論この事は推測なのだが、陶片、伝世品等を見ていると古田織部、所謂織部好みといわれる道具が多く、遠州指導の前に、既に織部の強い影響があったのだらう。概して桃山時代の陶器全般に織部の好み物と云われる物が多く、

当時内ヶ磯窯も其の範疇にあり、技術の高さは、他窯に比べ遜色がない。小堀遠州の指導に依り飛躍的に陶芸技術が進歩したと茶道誌等で見受けるが、どうなのだろうか。

寧ろ中興名物と云われる名器、茶器の一部は内ヶ磯窯作でないかと想う程、酷似の物もある。其れ程凄い。

以上、累々述べて見たが、あくまで私見であり学術的根拠はない。只、物を見る目を養うには、色

々とあるが、先ず物を自分の物とし研究し、多少痛い目にあわないと、向上しない。此の事は鉄則と云つても過言ではない様だ。

終りに内ヶ磯窯は、名器の宝庫であり、世に知られる事を願つて協力させて戴いたが、其の間有意義な時を過ごさせて貰い、有難う御座居ました。

古高取を伝える会、皆様の発展を願つて。

古高取の広場

古高取内ヶ磯窯に想う

小山 亘

福岡県直方市の福智ダムには江戸初期に造られた高取焼の内ヶ磯窯跡が眠っている。その内ヶ磯窯では当時「茶湯名人」古田織部の好みの意匠「織部好み」が焼かれていたことは発掘調査によって明らかになった。

織部については、当時朝鮮使節として来日していた姜坑の著『看羊録』に「……古田織部なる者がいて、ことごとく天下一を称している。花や竹を植えついたり、茶室をつくらせたりすれば、かなら



ず黄金百枚を支払つてかれに鑑定をもとめる。炭を盛る破れ瓢、水汲み用の木桶でも、もし織部がほめたとなれば、もうその値は論じるところではない。……と記されている。内ヶ磯窯は「天下一の織部の隠れ大窯」といういわれがあるが、筑前之国・福岡藩が織部に頼んで内ヶ磯窯を造らせたとするならば、どれほどの黄金を織部に支払ったのであろうか？

ちなみにスペインのバスク地方出身の世界的な芸術家パブロ・ピカソ、ホアン・ミロも内ヶ磯窯で焼かれた古高取を絶賛しているが、その当時は未だ古唐津とされていた時であった。

活動の記録

●ギャラリートーク

「古高取と古唐津」について

〈平成二十三年五月五日(木)
十一時～十二時〉

場所…直方谷尾美術館

講師…副島邦弘氏

四月二日(土)から開催した「古高取・古唐津」展においてギャラリートークを開催致しました。



●金剛山もととり便り

(金剛山もととり協議会)

数年にわたり工業団地造成のため
の植音がこだましていた里山も

静寂さをとりもどし新緑がまぶしい季節です。

もととりハウスを中心に西側は
広大な工業団地。東側は手つかず
の里山が残っています。この場所
を市民が憩える場所にと協議会を
立ち上げ少しずつ活動の輪を広げ
ています。

植樹の手入れ、栗山へと続く登
山道の整備、もととりハウス周辺
の清掃、不法投棄の監視、労力を
お願いすることばかりですが、作
業の後は里山の幸で食事会、楽し
いこともあります。

今年度は誰でもが経験出来ない
様な焼物教室も計画しています。
楽しみにしていってください。

末松 登志子

なんでも掲示板

●子ども達による呈茶サービス

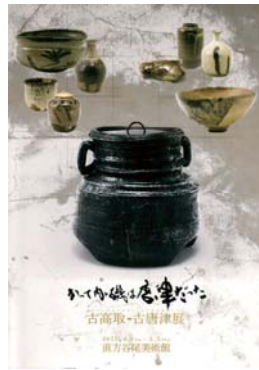
〈平成二十三年五月一日(日)
十一時～十三時〉

場所…直方谷尾美術館 茶室

「古高取・古唐津」展のイベン
トで、直方歳時館子ども茶道教室の
子ども達による呈茶サービスが行
われました。ありがとうございま
した。

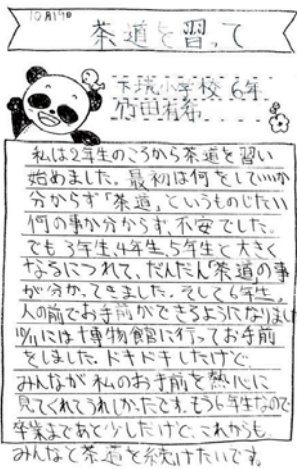
●「古高取・古唐津」展の目録 販売について

「古高取・古唐津」展の目録を販
売しています。古高取や古唐津の
作品が100点以上掲載されてい
ますので、展示会をご覧になっ
ていない方など、どうぞお買い求
めください。詳しくは、事務局まで
お問い合わせください。



一冊 1,000円(税込)

お茶会に参加した子ども達から 感想文を頂きました



下境小学校6年 竹田有希

※感想文は、昨年度いただいたもので
すので、現在の学年は中学一年生です。

〈掲載内容募集〉

「古高取」の魅力を発信するた
めのイベント情報など募集して
います。掲載可能な情報等がご
ざいましたら、事務局までご連絡
ください。

〈編集後記〉

今回は、少しページを削減し
て総会前の発行にしました。今
回掲載出来なかった記事は、別
途、ホームページや次号で掲載
させて頂こうと思います。

皆様、是非総会にご出席くだ
さいますようお願い致します。

「古高取通信」会報・NO9

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

平成二十三年五月十六日

〈現在の会員数〉

正会員 八十九名(九十名)
賛助会員 二十二名(三十二名)
団体 二団体(三三〇)

〈マイ茶碗の数〉

3761個

〈事務局〉

〒八二二〇〇二六
福岡県直方市津田町七十四
TEL〇九四九(二三)二三二一